

日本フランス語フランス文学会

2026年度春季大会

2026年5月30日(土)・31日(日)

会場：早稲田大学戸山キャンパス 〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

大会本部：早稲田大学文学部 フランス語フランス文学コース室

mail: salut@list.waseda.jp

■お車でのご来場はご遠慮ください。■お問い合わせはメールでお願いいたします。

■大会費の支払いは、7ページの案内に従い、5月25日(月)までにPeatixでチケットをご購入ください。

■懇親会に参加ご希望の方は、7ページの案内に従い、5月18日(月)までにPeatixでチケットをご購入ください。

■大会参加にあたり、招請状の必要な方は学会事務局までご請求ください。

■委員会・役員会につきましては、各委員長・幹事長よりご連絡いたします。

大会費：1,000円

昼食：5月30日(土)・5月31日(日)とも、会場周辺の飲食店が営業しておりますので、お弁当の用意はございません。

■一般控室：33号館2階232教室

■賛助会員展示会場：33号館3階ホワイエ

第1日 5月30日(土)

委員会 9:00~10:00

幹事会・役員会 10:30~11:30

受付 11:30~17:00 33号館1階

開会式 12:10~12:25 38号館AV教室

司会 小黒 昌文(早稲田大学)

開会の辞 鈴木 雅雄(早稲田大学)

開催校代表挨拶 柳澤 明
(早稲田大学文学学術院長)

会長挨拶 澤田 直(立教大学名誉教授)

研究発表会 第1部 12:35~14:30

第2部 14:35~16:30

特別講演1 16:45~18:00 38号館AV教室

Anne Foucault (Musée national d'art moderne – Centre Pompidou)

« Et, dans un spasme, les langues se délieront » : situation des femmes dans le surréalisme parisien, de l'après-guerre aux années 1970

司会 鈴木 雅雄(早稲田大学)

懇親会 18:10~20:10

会場：戸山カフェテリア 38号館1階

会費：正会員(A・B)、賛助会員：6,000円

学生会員：3,000円

第2日 5月31日(日)

受付 9:00~16:00 33号館1階

ワークショップ第1部 9:30~11:30

1 文学と教育
——作品中の「教育者」像から、教育対象としての文学まで
33号館331教室

2 ジェノサイドと証言——表象不可能性のあとで
33号館332教室

ワークショップ第2部 12:30~14:30

3 フランス語教育を支える検定事業
——フランス語教育振興事業からのアピール 33号館331教室

4 パスカル研究の現在
——『パスカル読本』刊行を記念して 33号館332教室

5 語圏横断的なカノン研究に向けて
——フランスと周辺国におけるカノンの形成と再編
33号館333教室

特別講演2(スペクタクル) 14:40~15:55 38号館AV教室

Charles Di Meglio et Maxime Ardent (compagnie Oghma)

De l'audace, des bougies et beaucoup de baroque

—— rendre visible ce qui se cache ——

司会 Odile Dussud(早稲田大学)

総会 16:10~17:10 38号館AV教室

議長 田上 竜也(学習院大学)

閉会式 17:10~17:25 38号館AV教室

会長挨拶 澤田 直(立教大学名誉教授)

閉会の辞 井上 櫻子(早稲田大学)

研究発表会 プログラム 5月30日(土)

	第1部 (12:35-14:30) ① 12:35~ ② 13:15~ ③ 13:55~	第2部 (14:35-16:30) ① 14:35~ ② 15:15~ ③ 15:55~
33号館 331 教室	分科会Ⅰ 語学、中世、16世紀	分科会Ⅳ 17世紀、18世紀
	司会：須藤佳子（日本大学） ① 語用論的前提の戦略的使用と題材の社会的受容困難性の関連可能性について——フランス語セールスライターにおける語彙共起に基づく分析 井上大輔（博士（言語学・上智大学）） 司会：瀬戸直彦（早稲田大学名誉教授） ② 『アキロン・ド・バヴィエール』におけるガラアドについて 宮下拓也（同志社大学非常勤講師） 司会：志々見剛（学習院大学） ③ モンテーニュにおける「著者」意識の深化 山本佳生（広島大学助教）	司会：畠山香奈（白百合女子大学） ① 悲劇的装置として読み解くキノエ劇の「悪役」 高安理保（早稲田大学助教） 司会：井上櫻子（早稲田大学） ② 『エミール』と『新エロイズ』における宗教教育の比較——ルソーが子どもに教える宗教とは 福永暁斗（九州大学大学院博士後期課程）
	分科会Ⅱ 19世紀	分科会Ⅴ 20・21世紀 ②——ミショー
33号館 332 教室	司会：谷本道昭（東京大学） ① バルザック『ピエール・グラスール』に登場する実在の画家——クロード＝マリー・デュビュフに着目して 山口詩織（京都大学大学院博士後期課程） ② ポール・ゴーガンと比較言語学のディスコース——「反ペシニズム」としての「楽しみ」の追求 加藤寛斗（早稲田大学大学院博士後期課程） 司会：鳥山定嗣（京都大学） ③ マックス・ジャコブの『海岸——ブルターニュの歌』——セミ・フォルクローレ、または架空のアイデンティティ 別役昌彦（中央大学非常勤講師）	司会：田母神顯二郎（明治大学） ① ミショー「夜のなかで」の音楽的翻案による解釈 平田美桜（京都大学大学院修士課程） ② ショートする回路を書く——アンリ・ミショー『角の杭』を読む 宮脇諒（東京大学大学院博士後期課程） ③ アンリ・ミショーと抵抗の詩学——文学はなぜ政治性を獲得するのか 瀬尾周平（早稲田大学講師（任期付））
	分科会Ⅲ 20・21世紀 ①	分科会Ⅵ 20・21世紀 ③
33号館 333 教室	司会：三ツ堀広一郎（東京科学大学） ① よそ者のいる風景——ベルギーの伝説作家マリ・ゲヴェルスにおける「未知なるもの」について 馬場智也（神戸大学非常勤講師） 司会：齊藤哲也（明治学院大学） ② アンドレ・ブルトン『狂気的愛』第五章におけるユーモアと偶然 佐々木大輔（パリ・ナンテール大学大学院博士後期課程） ③ レイモン・アロンのレジスタンスからシャルル・ペギーを見る——占領下フランスにおけるペギー評価の意味 荻野蓮三（東京大学大学院博士後期課程）	司会：谷谷親（早稲田大学名誉教授） ① 扮装と逃走——ジャン・ジュネ未刊行シナリオ『ディヴィーヌ』におけるFollesの一斉検挙に着目して 佐藤勇輝（慶應義塾大学大学院博士後期課程） 司会：小川美登里（筑波大学） ② あるテキストが置かれた出来事——『レフェメール』誌と若きキニャール 山口孝行（松山大学准教授） ③ 書いていない「私」——『神のファーストネーム』と『オランウータンの二重の忘却』を読む 北川光恵（東京大学大学院博士後期課程）

- ひとつの発表につき30分程度（発表20～25分＋質疑応答5～10分）とし、各発表の間に5分程度のポーズを設けています。
- 2024年度より、学会誌は完全投稿制に移行しました。以下の点にご注意ください。
 - ・学会誌編集委員による聴取・採点は行われません。
 - ・司会による「学会ニュース」での報告は行われます。
 - ・発表者は、質疑応答の時間以外にも、聴衆からのフィードバックを受けるために、(1) コメント用紙等を配布して回収する、(2) 配布資料に自分のメールアドレスを掲載しておく、(3) アンケートフォームのリンクへのQRコードを掲載する等、自由に工夫をしていただけます。

特別講演・スペクタクル・ワークショップ

特別講演1 5月30日(土) 16:45~18:00

38号館 AV教室

司会：鈴木雅雄（早稲田大学）

**« Et, dans un spasme, les langues se délieront¹ » :
situation des femmes dans le surréalisme parisien, de l'après-guerre aux années 1970**

Anne Foucault

Attachée de conservation, Musée national d'art moderne – Centre Pompidou

La place des femmes dans le surréalisme suscite l'attention des spécialistes depuis les années 1970. A l'image de la défaveur critique dont fut souvent victime le groupe surréaliste parisien après 1945, une vision globale de la place des femmes durant cette période n'a pas été pleinement réalisée. Plus nombreuses que pendant l'entre-deux guerres, ces femmes (Marianne Van Hirtum, Giovanna, Annie Le Brun, Toyen...) furent artistes, poétesses, théoriciennes, polémistes, et bien souvent tout cela à la fois. Cette conférence sera l'occasion de les considérer en tant qu'actrices du mouvement surréaliste et de leur rendre une agentivité que la critique leur a parfois peu accordée. Leur production ne sera pas abordée au prisme des spécificités d'une écriture ou d'un art surréaliste proprement « féminin », mais pour comprendre quel fut leur positionnement au sein du groupe et analyser leur activité notamment à l'aune de l'entrecroisement qu'elles privilégièrent entre poésie écrite et visuelle. Leurs réflexions théoriques sur les rapports de genre seront abordées dans leur relation conflictuelle aux évolutions contemporaines du féminisme, par-delà la dissolution du groupe en 1969 et jusqu'à la fin des années 1970.

¹ Véra Hérold, « Le Grand L », *Néon*, n°3, 1948

特別講演2 (Compagnie Oghma 初来日 公演×講演) 5月31日(日) 14:40~15:55

38号館 AV教室

司会：Odile Dussud（早稲田大学）

De l'audace, des bougies et beaucoup de baroque — rendre visible ce qui se cache — *

Charles Di Meglio

directeur artistique, metteur en scène, costumier et comédien de la compagnie Oghma

et

Maxime Ardant

comédien de la troupe

En 2015 débute l'histoire de la compagnie de théâtre baroque Oghma et du festival annuel du Périgord Oghmac. Pendant une décennie, le répertoire, du XV^e au XVII^e siècle, s'est enrichi et les spectacles se sont multipliés, un peu partout en France, dans des théâtres, des châteaux, à la Bibliothèque Nationale ou, récemment et encore cette année, à l'Institut de France.

Dans sa brochure, Oghma se présente ainsi : « La rhétorique du texte, sa musicalité, ses mouvements sont l'articulation de nos spectacles. Nous défendons un théâtre de la Parole, oui. Mais cela n'empêche pas nos spectacles d'être profondément visuels et avec des partitions souvent très physiques pour les acteurs. La période baroque ne voit pas de distinction entre les arts qui collaborent à une œuvre totale et unique. Nous tâchons de les rendre complices à nouveau en mêlant différentes pratiques artistiques entre elles. Mais nous travaillons aussi à un théâtre populaire, au-delà de la compréhension de la langue, où tout se fait évocation : musique, corps, costumes et expressions. »

Charles Di Meglio, formé par Eugène Green comme, avant lui, Benjamin Lazar, donnera, lors de cette conférence, un bref aperçu du renouvellement apporté par la recherche de la gestuelle et des tonalités de la diction baroque, de l'histoire et des objectifs de la compagnie Oghma. Puis il présentera, avec le comédien Maxime Ardant, la première scène de Phèdre, dialogue entre Hippolyte et Téraamène, et la scène V, 6, avec le fameux récit de Téraamène, qui démontre toute la brillance spectaculaire et imagée dont est capable ce théâtre.

* conférence-spectacle réalisée en partenariat avec EIKOS - Groupe d'études théâtrales du 17^e siècle français

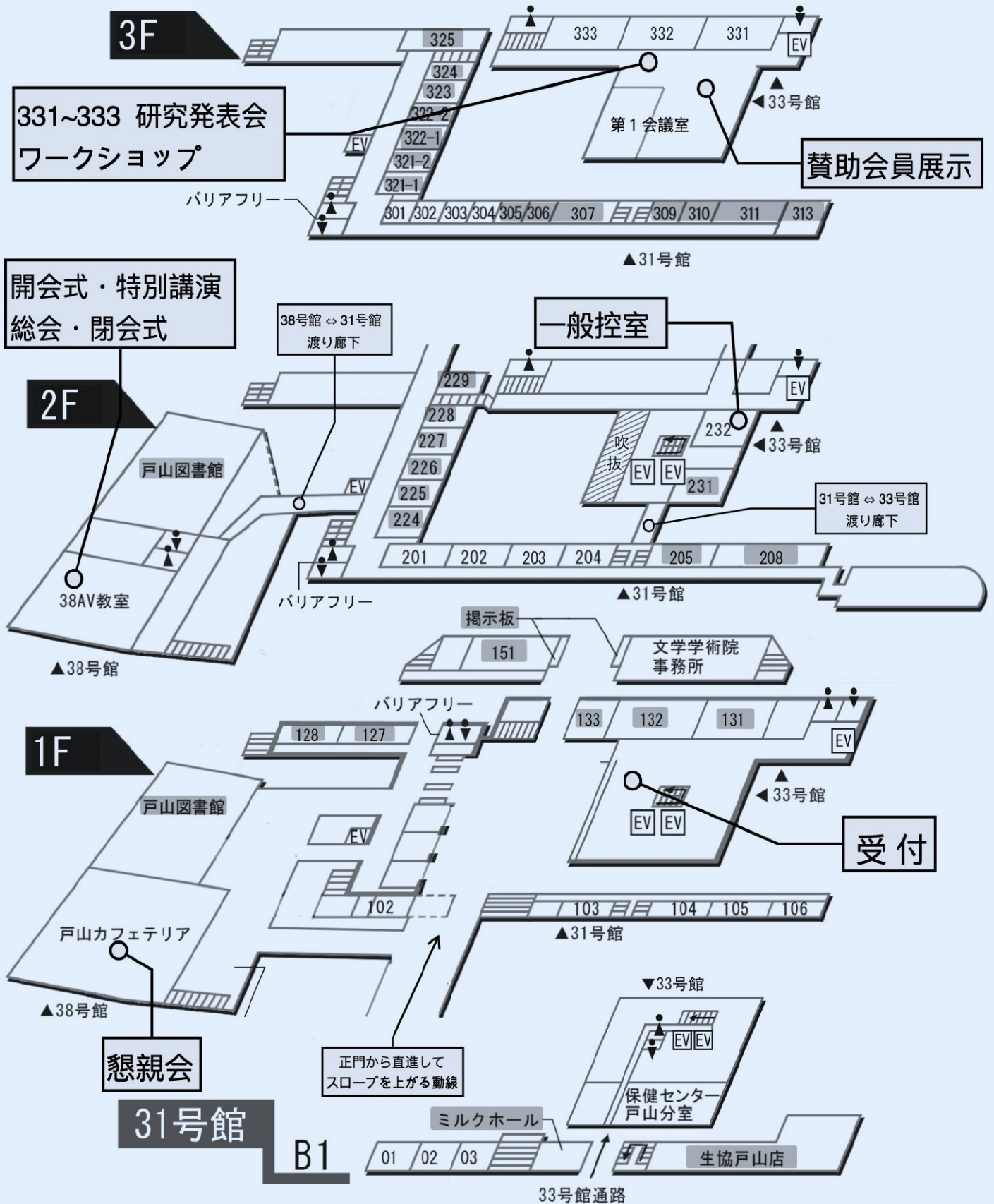
ワークショップ 5月31日(日) 9:30~14:30	
第1部 9:30~11:30	第2部 12:30~14:30
<p>① 文学と教育 —— 作品中の「教育者」像から、教育対象としての文学まで 33号館 331 教室</p> <p>コーディネーター・パネリスト： 小倉孝誠（慶應義塾大学名誉教授）</p> <p>パネリスト：石橋正孝（立教大学）、畠山達（明治学院大学）</p>	<p>③ フランス語教育を支える検定事業 —— フランス語教育振興事業からのアピール 33号館 331 教室</p> <p>コーディネーター・パネリスト：寺田寅彦（東京大学） パネリスト：倉方健作（九州大学）、深井陽介（東北大学）</p>
<p>② ジェノサイドと証言 —— 表象不可能性のあとで 33号館 332 教室</p> <p>登壇者：久保昭博（関西学院大学）、谷口亜沙子（明治大学）</p>	<p>④ パスカルの研究の現在 —— 『パスカル読本』刊行を記念して 33号館 332 教室</p> <p>コーディネーター・パネリスト：山上浩嗣（大阪大学） パネリスト：久保田静香（日本女子大学）、鈴木真太郎（盛岡大学）、川上紘史（奈良女子大学）</p>
	<p>⑤ 語圏横断的なカノン研究に向けて —— フランスと周辺国におけるカノンの形成と再編 33号館 333 教室</p> <p>コーディネーター・パネリスト：野田農（早稲田大学） パネリスト：石川大智（慶應義塾大学）、霜田洋祐（京都大学）、西尾宇広（慶應義塾大学）</p>

※ ワークショップの要旨については要旨集をご覧ください。

研究会 5月30日(土) 10:00-12:00	
日本フランス語学会	33号館3階 第1会議室
日本カミュ研究会	33号館3階 331 教室
パスカル研究会	33号館3階 332 教室
日本プーレスト研究会	33号館3階 333 教室
日本ジョルジュ・サンド研究会	31号館地下1階 01 教室
日本クローデル研究会	31号館地下1階 02 教室
日本ヴァレリー研究会	31号館地下1階 03 教室
ラブレール・モンテニュー・フォーラム	31号館1階 102 教室
フローベール研究会	31号館1階 103 教室
ボードレール研究会	31号館1階 104 教室
自然主義文学研究会	31号館1階 105 教室
日本マラルメ研究会	31号館1階 106 教室
バルザック研究会	31号館2階 203 教室
バタイユ・ブランショ研究会	31号館2階 204 教室

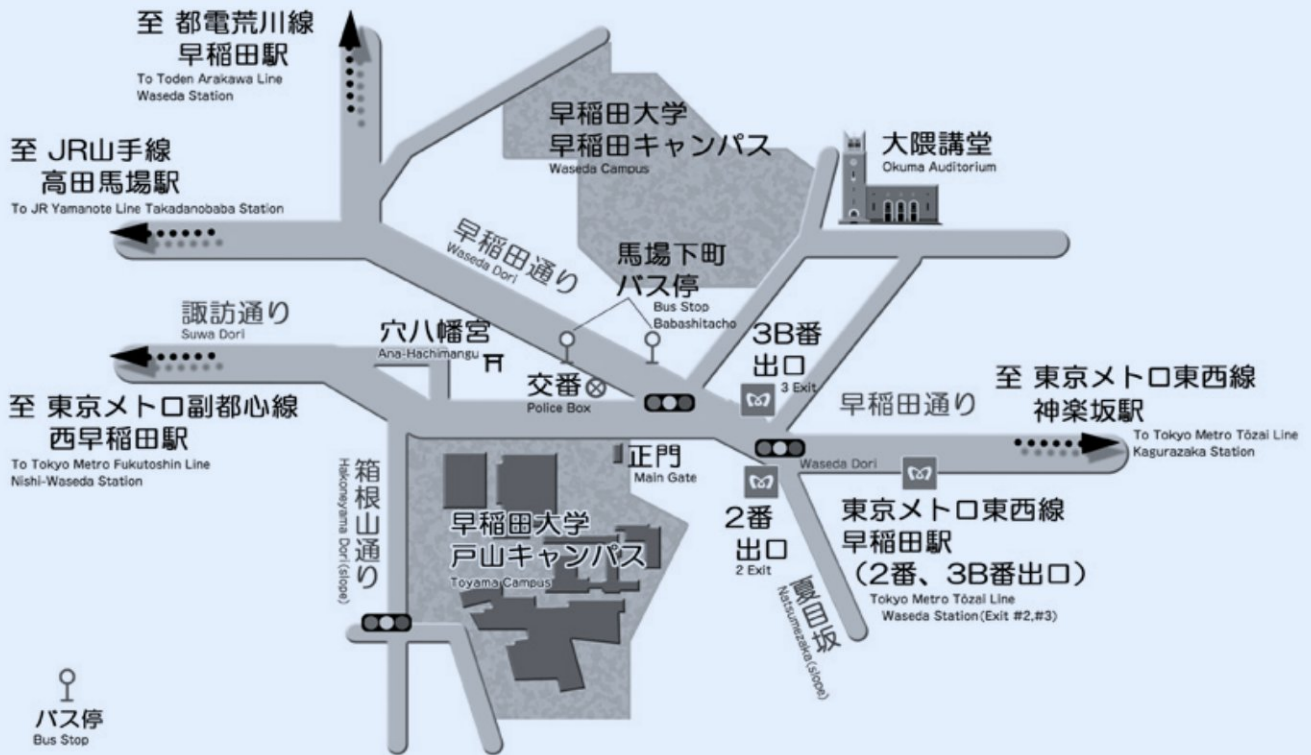
委員会 5月30日(土)	
9:00 - 10:00	
学会誌編集委員会	31号館2階 202 教室
渉外委員会	31号館3階 301 教室
広報委員会	31号館3階 302 教室
研究情報委員会	31号館3階 303 教室
語学教育委員会	31号館3階 304 教室
学会奨励賞選考委員会	31号館2階 201 教室
10:30 - 11:30	
幹事会・役員会	31号館2階 201 教室

[フロアマップ]

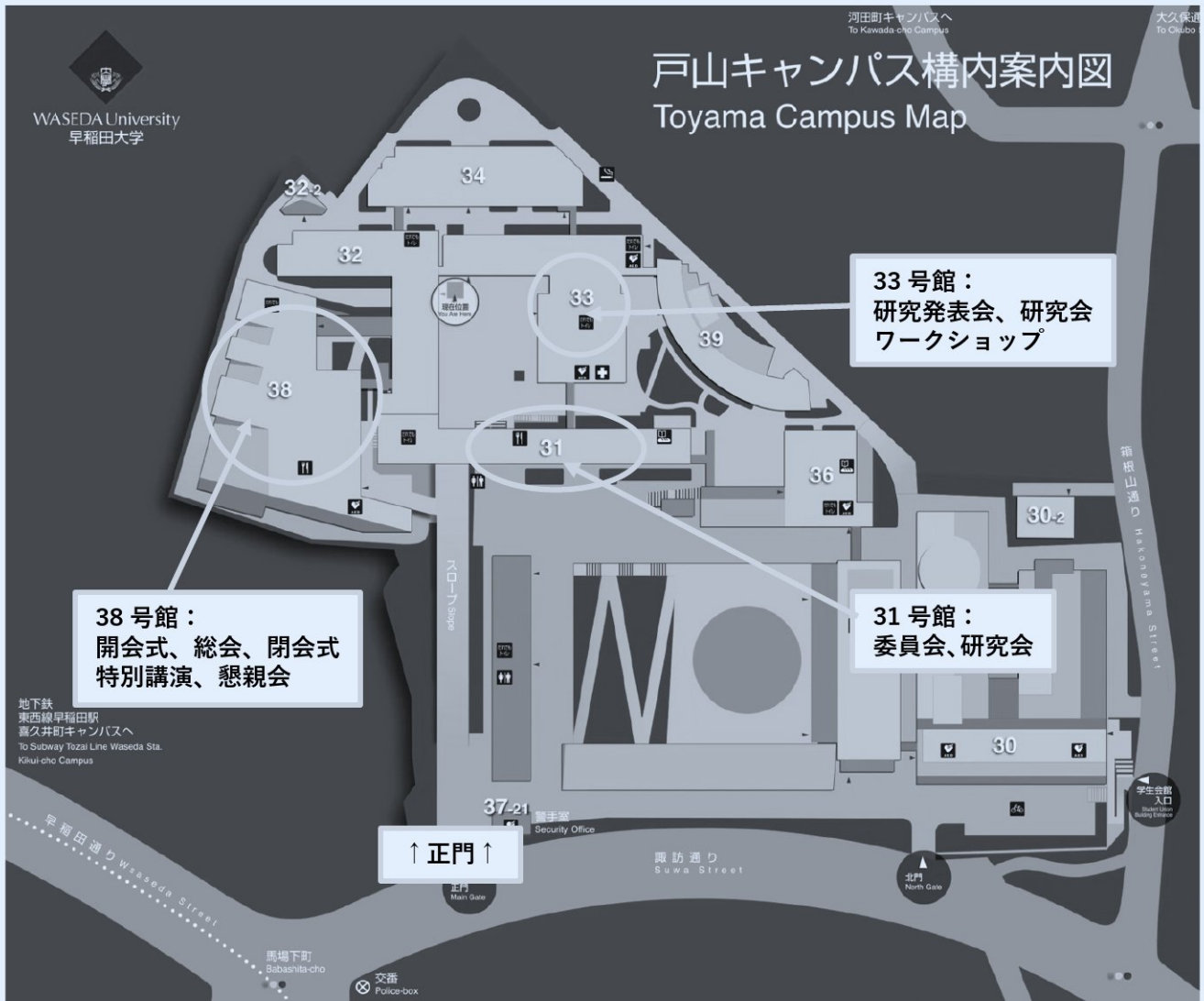


* 31号館と33号館、および33号館と38号館は、それぞれ2階部分の渡り廊下で結ばれています。

[戸山キャンパス周辺地図]





[構内案内図]



大会費、懇親会費の支払いについて

- **大会費、懇親会費ともに以下のURLまたはQRコードからPeatixでチケットを購入してください。**
- **大会費**のチケット購入は、**5月25日(月)まで**にお願いいたします。
- **懇親会費**のチケット購入は、**5月18日(月)まで**にお願いいたします。会場の定員、およびお食事やドリンクの準備の都合上、基本的に当日の申し込み参加はお受けできません。事前の申し込みをお願いいたします。
- 懇親会の会場は、早稲田大学戸山カフェテリア（戸山キャンパス38号館1F）、日時は5月30日（土）18:10～20:10（17:50受付開始）です。

	支払期限	金額	URL	QRコード
大会費	5月25日(月)	1,000円	https://sjllf2026p-waseda-taikai.peatix.com	
懇親会費	5月18日(月)	正会員A・B、 賛助会員：6,000円	https://sjllf2026p-waseda-konshinkai.peatix.com	
		学生会員：3,000円	チケット購入時に会員区分と金額をよくお確かめください。	

Peatix（ピーティックス）でのご購入について

- 「大会費」「懇親会費」（「正会員A・B、賛助会員」または「学生会員」）のチケットをそれぞれ購入できます。基本的に、当日の現金払いはお受けできません。
- 「大会費」「懇親会費」のチケットは別々にご購入ください。なお、購入するチケットの種類を間違えないようお願いを付けください。
- 購入後のキャンセルについては、Peatixのサイト等から主催者にその旨申請していただく必要があります。また、所定のキャンセル手数料がかかります。
- 申し込みにはPeatixのアカウント(登録無料)が必要ですが、Google、X、Facebook、Appleのアカウントも使用できます。
- 「ご確認」のページの「姓名」「表示名」には、学会の会員名簿に載っている氏名をご入力ください（名簿の表記が戸籍名と異なる方はとくにご注意ください）。アカウントの登録名はいずれでもかまいません。
- 決済方法は、「クレジットカード」「コンビニ/ATM」（要手数料）「paypal/銀行振込」の三種類の中から選ぶことができます。
- 購入後、チケットの支払い決済ができていないかどうか、「マイチケット」または「チケット購入履歴」でご確認ください。領収書は、後日「チケット購入履歴」から「領収データ」の形で、各自ダウンロードできます(宛名・但し書は編集できます)。手書きの領収書が必要な場合は、当日受付にお申し出ください。
- 大会の入場時にスマートフォン等でのQRコードの提示は不要です。また、アプリのダウンロードも不要です(受付にてご購入者名簿を確認いたします)。
- 学会などの参加費徴収にPeatixを利用するケースが増えてきたため、Peatixの領収データと大会詳細ページの提出をもって、個人研究費からの「学会費」の支出を認める大学も多くなってきています。ご所属の機関でそうした措置が認められるかどうかは、各自ご確認ください。
- ご購入後のチケットを他の人に譲渡することはできません。
- 大会費、懇親会費とも、Peatixでチケットを購入できるのは本会の会員に限ります。

会場までの交通案内

- 戸山キャンパスへは、東京メトロ東西線の早稲田駅を利用していただくのが便利ですが、それ以外のアクセス方法も含め、以下の通りご案内いたします。

• 電車で	• JR山手線 高田馬場駅から徒歩20分	
	• 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分	
	• 地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩3分	
	• 都電荒川線 早稲田駅から徒歩12分	
	• 副都心線 西早稲田駅から徒歩15分	
• バスで	• 学バス	• 高田馬場駅 – 早大正門、馬場下町バス停
• 空港から	• 成田国際空港からJR成田エクスプレス利用で約1時間50分、成田エクスプレス「新宿駅」乗換、山手線「高田馬場駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」	
	• 成田国際空港からリムジンバス利用で約2時間、リムジンバスにて「新宿駅（西口）」JR山手線「高田馬場駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」	
	• 成田国際空港からJR京成スカイライナー利用で約2時間、京成スカイライナー「上野駅」乗換、東京メトロ銀座線「日本橋駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」	
	• 東京国際空港（羽田空港）から京浜急行利用で約1時間、浅草線（京浜急行から直通）「日本橋駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」	

託児サービス

- 大会会場内での託児所の開設はありませんので、学会による託児料金の補助制度をご利用ください。各自で託児所をご利用いただいた場合、その料金について子ども1人につき1日最大5,000円までの補助が受けられます。学会ホームページより「託児サービス利用料補助申請書」をダウンロードのうえご記入いただき、領収書を添付して学会事務局にメールで送付してください。